

令和元年度 第2回西淀川区教育行政連絡会議事要旨（小中合同）

日 時：令和元年 10 月 2 日（水）15:00～16:30

場 所：西淀川区役所 401・402 会議室

出席者：（学校）柏里小学校・野里小学校・姫里小学校・大和田小学校・佃小学校・佃西小学校
歌島小学校・御幣島小学校・佃中学校・西淀中学校

（区役所）塩屋区長・山本副区長

横内学校教育支援担当課長・向井総務課担当係長・植田総務課担当係員

1 令和2年度インクルーシブ教育応援サポーター事業について

○意見交換要旨

野 里：サポーターのトータルの時間数はどうなる。

区：有償ボランティアから会計年度任用職員になる分、時間当たりの人件費が高くなるが予算は変わらないので、時間数は減ってしまう。そこに対しての問題意識は高い。どうにか予算を多く出せるようにしたい。

柏 里：これまで市からは支援級の人数に応じてサポーターが配置されてきた。そのほかの部分を区が各校の状況に応じてサポーターを配置してくれていた。今日から難病を患う児童が入ってくるにあたり、市に人員の追加を頼んだが、回答に時間がかかるとのことだった。区に問い合わせると、すぐに対応してもらえた。急な事態が起きた時に、これからはどこに頼んだらよいのか。

区：市は市内全小中学校を取りまとめるので大変であると思われるが、スピーディな対応を要請していく。来年度からの特別支援教育サポーターは課外活動にも対応できる。

佃 小：これからどんどんこのサポーターのニーズが増えていく中で、現在佃小では、特別支援教育サポーター、インクルーシブ教育応援サポーター、学びサポーターも使ってギリギリ対応している。しかし、学びサポーターが基本配付の予算で対応しないといけなかったので、芸術鑑賞などを諦めなければならなくなっている。できれば基本配付予算を増やすか、基本配布とは別枠で用意してほしい。

大和田：インクルも学びサポーターも同じ人が兼務している。人材が足りない。市教育委員会から様々な形で人が来ているが、地元西淀川区の人材が必要。インターンや研究等で大学と協力して、地元の人材を確保して行ってほしい。

区：今週から、大阪大学と提携して、研究の一環で日本語学習サポーターとして1人学生が来る。淀中地区を中心に活動してもらう予定。

佃 中：特別支援教育サポーターと一元化する根本的な理由は。

区：ボランティア等以外で雇用するには、「会計年度任用職員」という地方公務員として雇用しなければならないと、地方公務員法及び地方自治法が来年改正される。現状のまま移行すると、市が行う特別支援教育サポーターとインクルーシブ教育応援サポーターとが同一人物の場合、労務コンプライアンス上の問題が生じるため、致し方ない判断であった。

2 令和2年度「校長経営戦略予算（次長枠）」について

3 西淀川スクールボランティア支援事業

大和田：各校何時間くらい。

区：中学校には学校元気アップ地域本部事業があるので、小学校の方に多く予算をつけている。

佃 小：予算が厳しい中で、このようなサポートはありがたい。

佃 西：これにより学生が来てくれれば、学生は教員採用試験に向けていい経験になるし、学校にとっても人材が確保できてうれしい。

3 令和元年度日本語学習支援サポーター事業について

区：学校で把握している人材がいればぜひ登録してください。

4 学校施策評価と令和元年度校長経営戦略支援予算（加算配布）について

5 令和元年度プログラミング教育の推進と理数教育の向上事業について

6 令和元年度に～よん漢字道場について

大和田：漢検への取組には、漢検アプリの体験版が学校のタブレットにダウンロードして使える。
ので、情報提供します。